

# 向学館通信

2009・6・26

中学生の多くは定期テストが終わりました。テスト対策学習のやり方もだんだんうまくなってきたようです。今回も、好成绩の人が増えました。喜んでいきます。

定期テストの結果は必ず、問題と解答を提出してください。

## 中1、中2対象の実力テストを行います（7月中旬までに）

学校の定期テストでは、問題は、2～3ヶ月間に習った範囲からほとんど出題されます。だから、その短い範囲を勉強しておけば、そこそこの点数が取れます。それで、自分がそんなに悪い成績ではないと思っている人がかなりいます。こうした楽観性は、ある意味ではとてもいいことなのですが、中3になると、困ったことが起こります。

それは、中3生全員に模擬テストを受けてもらうことになるからです。大阪進研の「Vもし」ですが、このテストは、中1、中2で学んだ広い範囲から出題されます。それまで、学校の成績ではかなりいいほうだった人も、この模擬テストでは、ひどい成績をとることもあります。

模擬テストは、高校入試問題と同様に、中学校で学んだ全範囲から広範囲に出題されるわけです。だから、それまでの学校のテストとは、様子が違います。模擬テストによって「実力のなさ」が暴露されることとなります。それまでの学校の成績を見て安心されていた親御さんもこんなに実力がなかったのかと驚かれるケースもあります。

なぜ「実力がない」のか。ほとんどの場合、習ったことを4～5カ月もするとほぼ完全に忘れてしまっているからです。つまり、学んだことがしっかり定着していないのです。これまで、模擬テストの結果が春先から夏ごろまではあまり成績が上がらないで、忘れた個所の補いをし、やっと秋ごろから成績が上がり始めるという人がかなりいました。今後、忘れた個所の補いを、1年、2年のうちにやっておくことにします。

そのための実力テストです。だから、学校のテスト範囲とはちがって、これまでに習った中から重要と思われる問題（忘れてはいけない問題）を出します。そして、この実力テストの結果を見て、各自の補強すべきところを明確にして、実力アップを図ります。

年に3回（7月、12月、3月）この実力テストを行います。科目は、英語、数学の2教科で、当塾での受講科目は必ずこのテストを受けてください。その科目を受講していないが、テストだけ受けたいという人も、受けてください。

## 通知簿の「3」は「普通」なのか？

中学校の成績評価が相対評価であったときは、5、4、3、2、1のそれぞれに何%の人が属すると決められていました。だから、がんばっていい点を取っても、「3」の人が「4」に上がれないといった問題がありました。絶対評価になって、こうした不幸がなくなった代わりに、「1」をつけるのが気の毒だといった感情が働くのか、最近の通知簿には「1」や「2」が少なくなり、とくに「1」はめったにお目にかからなくなりました。

もともと「3」は「4」に近い人や「2」に近い人までいて、かなりの幅があるわけですが、最近では、「3」の人の成績が下がってきていると思います。昔なら「2」あるいは「1」かもしれないと思われるような人でも「3」になっていることがあります。だから、「3」をキープしているので、平均的な位置だと思っていると、実力が平均よりかなり下だった、といったことになりかねません。こうした錯覚をしたままですと、高校入試の時や高校入学後に「本当の力」を痛感させられることとなります。

親御さんとの面談で、お子様が「オール3」位だから平均的なところだろうとおっしゃる方がおられます。しかし、私は、ちょっと不安です。昔の「3」とは、今は随分ちがうのです。

もし、通知簿に「2」や「1」がついていたら、親も子もあわてて対策を考えるかもしれません。しかし、「3」なら「真ん中あたり」と考えて、まあいいか、となるかもしれません。このように、本当の力を知らないまま、対策をとるべき時期を失したり、志望校の選び方を間違えたり、といったことが起こらないとは限りません。

こうしたことを未然に防ぐ意味でも、「実力テスト」は役立つと思います。